



JR九州グループの会社説明会

2025年2月12日

九州旅客鉄道株式会社（証券コード：9142）



KYUSHU RAILWAY COMPANY



本日お伝えしたいこと



JR九州グループ について

- JR九州グループのあゆみ
- JR九州グループの事業構成

JR九州の 経営戦略

- JR九州グループの経営計画の体系
- 本中期経営計画の重点戦略
- 本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり
- JR九州グループにおけるESGの取り組み

決算ハイライト ・ 株主還元

- 2025年3月期第3四半期連結決算ハイライト
- 2025年3月期通期連結業績予想
- 株主還元方針
- 株主優待制度



JR九州グループについて



KYUSHU RAILWAY COMPANY

企業プロフィール（2024年3月31日現在）



- 会社名称 九州旅客鉄道株式会社
- 設立 1987年4月1日
- 従業員数 単体7,576名(連結14,677名)※2024年4月1日現在
- 発行済株式総数 157,301,600株 （単元株式数：100株）
- 上場市場名 東京証券取引所プライム市場、福岡証券取引所
- 株主数 168,678名
- 子会社・関連会社
 - 子会社 63社（うち 連結子会社49社）
 - 関連会社 7社（うち持分法適用関連会社5社）



JR九州グループのあゆみ



KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループのあゆみ



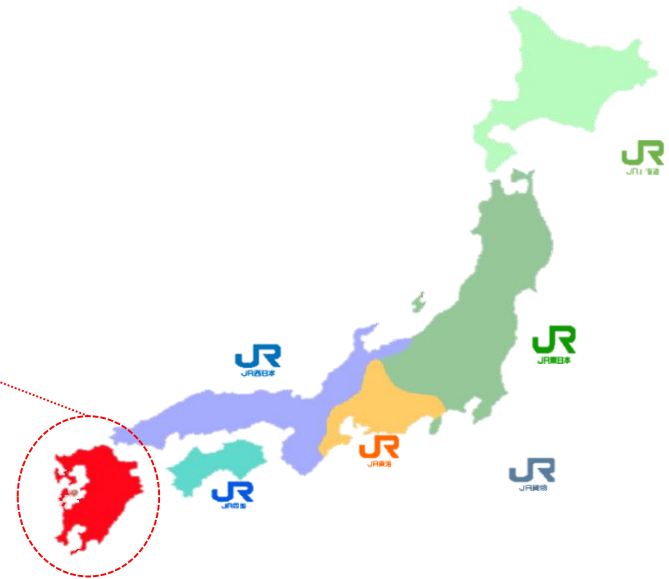
「日本国有鉄道」の分割民営化によりJR九州が発足

■ あらゆる事業に挑戦する精神

「鉄道事業だけに依存してはいけない」という思いで、
様々な事業に挑戦し成長を実現してきた



JR
JR九州
1987



JR九州グループのあゆみ



コーポレートカラーは「赤」



南の明るい太陽の国には、燃える熱意の色「赤」がふさわしく、
全力で明るくスタートダッシュをきる新会社の意欲的な姿勢を表現

JR九州グループのあゆみ



地域を元気にするという思いのもと**鉄道事業**と**関連事業**の両輪であらゆる価値を創出

●鉄道事業



(D&S列車)

- ・ 1989年の特急「ゆふいんの森」の運行を皮切りに、現在では、10本のD&S列車（デザイン&ストーリー列車（観光列車））を運行
- ・ 2024年4月に「かんぱち・いちろく」がデビュー



(ななつ星 in 九州)

- ・ 2013年に日本で初めてのクルーズトレインとして誕生
- ・ 米国出版大手コンデナスト社の旅行誌の読者投票では「世界の豪華列車」部門で3年連続世界トップに選ばれる



(九州新幹線・西九州新幹線)

- ・ 2011年に九州新幹線（博多～鹿児島中央）が全線開業し、JR博多シティとの相乗効果で当社の成長はさらに加速
- ・ 2022年に西九州新幹線が開業を果たし、西九州エリアの活性化を後押し

JR九州グループのあゆみ



地域を元気にするという思いのもと**鉄道事業**と**関連事業**の両輪であらゆる価値を創出

●関連事業



(不動産・ホテル)

- ・ 1989年に初の分譲マンション販売を開始
- ・ 1992年に「ホテルブラッサム福岡」を開業
現在、九州・沖縄、京都、東京、タイにて、20のホテルを展開
- ・ 1997年に初の駅ビル事業であるアミュプラザ小倉が開業
現在、九州の県庁所在地を中心に駅ビルを7箇所で開催
- ・ 2021年に物流事業へ参入
現在、物流不動産を4件取得、3件の開発に着手



(流通・外食)

- ・ 2002年には、飲食店「うまや」を東京・赤坂に開業する
など、東京、九州で外食事業も展開



JR九州グループのあゆみ(「ななつ星 in 九州」運行10周年)





JR九州グループの主な事業構成

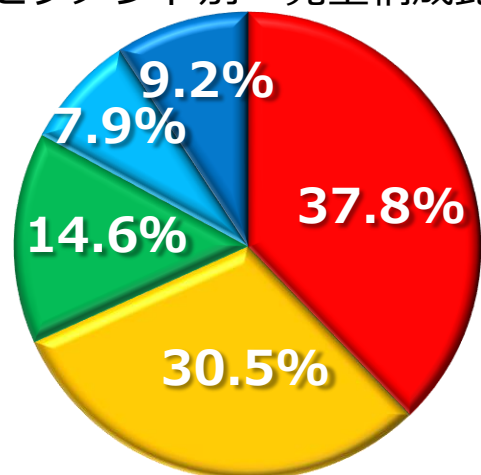


KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループの事業構成

- JR九州グループは、九州全域に鉄道網を有する鉄道をコア事業とする企業グループ
- 駅ビルやホテル、マンション、建設、流通や外食事業など、鉄道事業との相乗効果が高い領域を中心にその事業領域を拡大
- 鉄道以外の事業による売上が約6割となっており、事業の多角化が進んでいる

【セグメント別 売上構成比（2024年3月期）】



運輸サービス



不動産・ホテル



流通・外食



建設



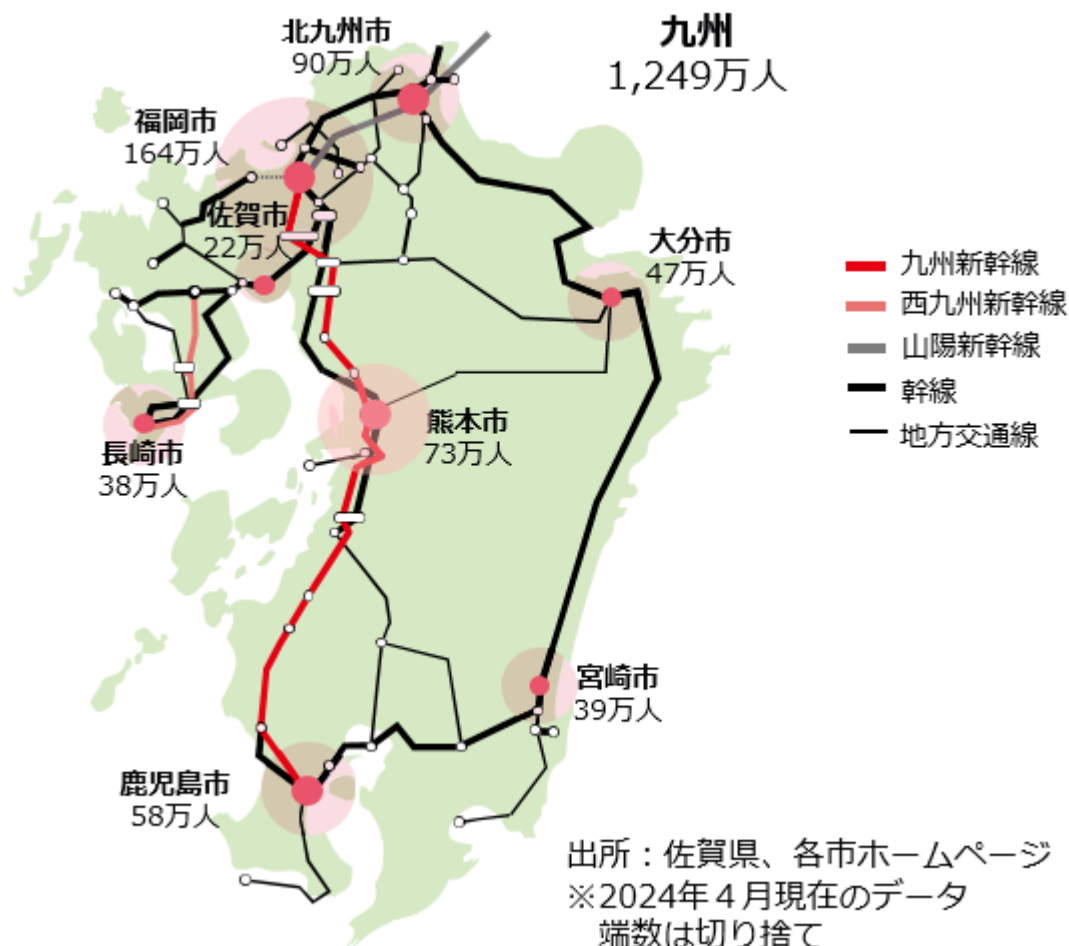
ビジネスサービス



JR九州グループの事業構成 | 全国屈指の経済基盤を有する九州



- 九州は『日本の1割経済』という位置付け（域内総生産、総人口、総面積、事業所数等）
- 福岡市及びその周辺は人口増加が見込まれる成長性の高い都市
- 40万人以上の人口を有する都市が九州全体に分散
- 九州は人口減少が進んでいるものの、強固な経済基盤を有している



JR九州グループの主な事業構成（熊本地区）



- 九州の大動脈である九州新幹線の整備等を行う熊本総合車両所がある
- 「アミュプラザくまもと」を中心とした複合開発を推進

熊本総合車両所

- 九州新幹線の整備、点検を行うほか、車両の大規模な検査や修繕を行う工場機能を持つ施設



アミュプラザくまもと

- お買い物を楽しんでいただくことはもちろん“買いたい”より“居たい”誰かを連れて行きたくなる居心地のよい場所をコンセプトにした商業施設



D&S列車（あそぼーい！、A列車で行こう）

- 地域の魅力発信や観光振興に貢献すべく、D&S列車（観光列車）を運行



MJR熊本ゲートタワー

- 雄大な自然や都市を見晴らす地上30階建てのタワーマンション。熊本駅から徒歩4分の場所に2026年2月竣工予定。
- 熊本の歴史や文化を継承し、新たな時代の象徴となるような熊本城の石垣等のデザインモチーフを採用





JR九州の経営戦略



KYUSHU RAILWAY COMPANY



JR九州グループの経営計画の体系



KYUSHU RAILWAY COMPANY

価値創造ストーリー



価値創造ストーリー

「あるべき姿」には、私たちが、九州の元気をつくっていく、さらに、九州から日本、そしてアジアを舞台に元気をつくっていくという思いが込められています。

「誠実」、「成長と進化」、「地域を元気に」の3つの「おこない」は、私たち一人ひとりが常に立ち返るべき拠り所として大切にしている行動指針です。

当社グループは、「あるべき姿」に向けて「おこない」のもとに事業を実践することで、企業価値向上と持続可能な社会の実現を目指していきます。

価値創造プロセス

JR九州グループが大切にしている
3つのおこない

「誠実」
「成長と進化」
「地域を元気に」

**JR九州グループ
中期経営計画**
2022-2024

あるべき姿

安全とサービスを基盤として
九州、日本、そしてアジアの元気をつくる
企業グループ

2030年 長期ビジョン

安全・安心なモビリティサービスを軸に
地域の特性を活かしたまちづくりを通じて
九州の持続的な発展に貢献する

2030年長期ビジョン実現方針

- 方針① 価値観の変化を捉えた“豊かな生活を実現する”まちづくり
- 方針② 九州の持続的な発展に貢献する領域の拡大

マテリアリティ

JR九州グループが常に考えるべきこと

- E** 脱炭素社会の実現
- S** すべての事業の基盤となる安全とサービス
- S** 持続可能なまちづくり
- S** 価値創造の源泉である人づくり
- G** 健全な企業運営



2030年長期ビジョン実現方針

2030年長期ビジョン(前中期経営計画から継続)

安全・安心なモビリティサービスを軸に地域の特性を活かしたまちづくりを通じて九州の持続的な発展に貢献する

◆2030年長期ビジョン実現方針

方針①

価値観の変化を捉えた“豊かな生活を実現する”まちづくり

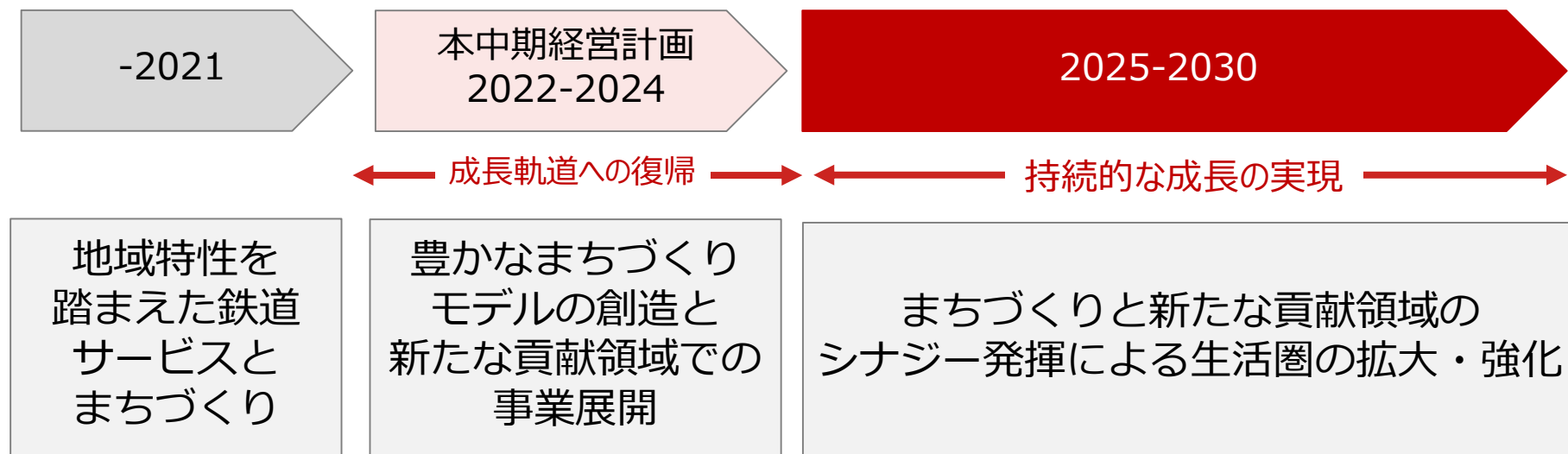
方針②

九州の持続的な発展に貢献する領域の拡大

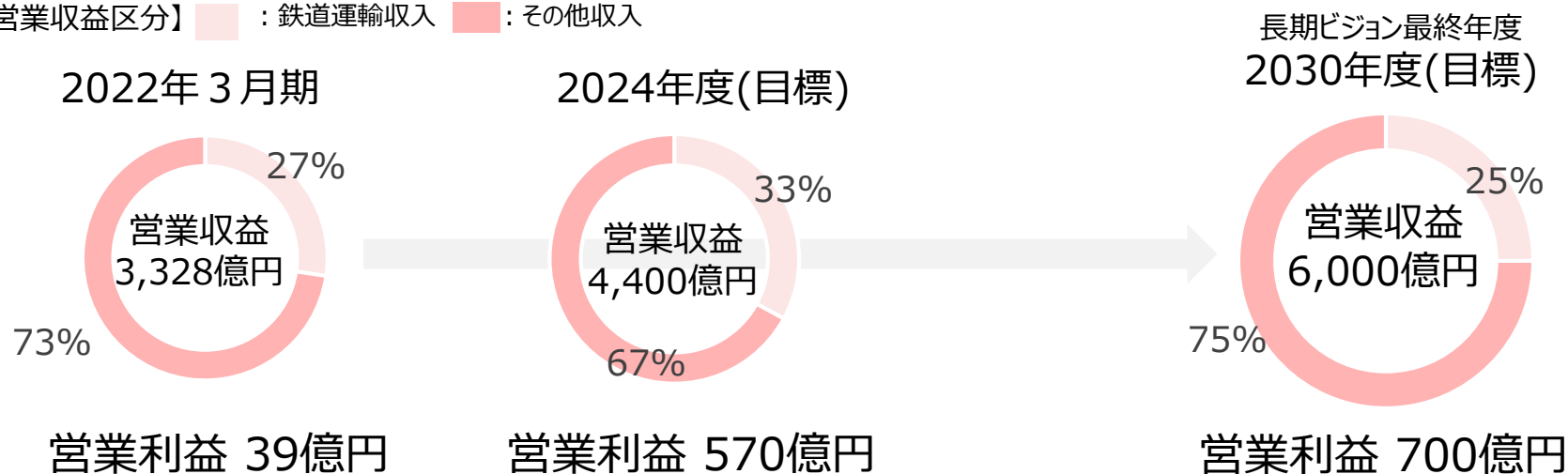
JR九州グループの経営計画の体系



長期ビジョン実現に向けたステップ



【営業収益区分】 : 鉄道運輸収入 : その他収入





本中期経営計画の重点戦略



KYUSHU RAILWAY COMPANY



3つの重点戦略

- 重点戦略① 事業構造改革の完遂
- 重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造
- 重点戦略③ 新たな貢献領域での事業展開



3つの重点戦略

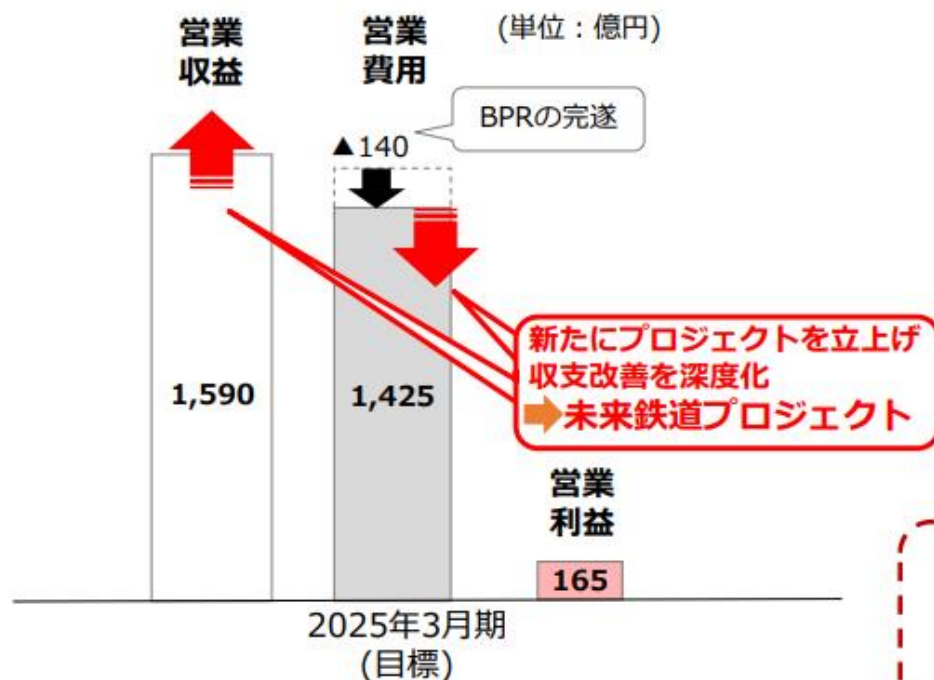
重点戦略① 事業構造改革の完遂

重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造

重点戦略③ 新たな貢献領域での事業展開

BPRで培ったスリムな鉄道事業を起点として、モビリティの進化と経営体力の強化に取り組み、九州のまちづくりを牽引する「未来の鉄道」をつくる

中期経営計画と未来鉄道プロジェクトの関係性



九州のまちづくりを牽引する 「未来の鉄道」をつくる。

モビリティの進化
経営体力の強化

セカンドステージ2030

- ・インテリジェントな鉄道
- ・持続可能なモビリティサービスの展開

ファーストステージ2024

- ・グループ全体での収支改善
- ・持続可能なモビリティサービスの共創
- ・技術革新によるセカンドステージの土台作り



重点戦略① 事業構造改革の完遂 | 鉄道事業（未来鉄道プロジェクト）



- 新技術を用いた利便性の向上に加えて、鉄道のメンテナンスにおいて、安全性を確保した上で、機械化・省人化施策の実装に向けた取り組みを推進

QRチケットレスサービス開始

- 「JR九州インターネット列車予約」にてQRコードを使用したチケットレスサービスを2024年9月26日に開始
- 対象は博多駅発着の在来線特急列車及び西九州新幹線
- 指定席券売機及びみどりの窓口でのきっぷの受取が減少し、駅混雑が緩和、機器コストの削減に寄与

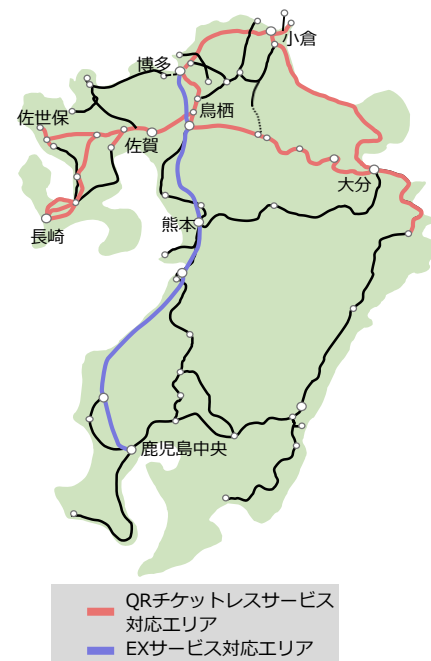


※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

利用実績

対象商品の予約総数に
占める割合
約73%
※集計期間：
1月1日～1月31日

来年度、すべての
在来線特急列車へ
拡大予定



九州新幹線における線路確認業務の効率化

従来の線路確認

- ・ 土日祝日と繁忙期を除き、夜間工事作業（線路や電線などの保守工事）をほぼ全線で実施
- ・ 終了後、始発前までに線路確認車による支障物の有無等の確認を実施
- ・ 運転者と確認要員の2名が乗車

確認車のワンマン化



- ・ AIを活用し線路上の支障物検知及びリスク判定を自動で行う装置を開発
確認要員が不要に
- ・ Tokyo Aristan Intelligence社との共同開発
- ・ 来年度上期に導入予定



3つの重点戦略

重点戦略①

事業構造改革の完遂

重点戦略②

豊かなまちづくりモデルの創造

重点戦略③

新たな貢献領域での事業展開

重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 西九州エリアのまちづくり

西九州新幹線開業を起爆剤とした西九州エリアの開発を推進することで、新幹線開業効果の最大化を目指す。



B 長崎マリオットホテル開業

- 2024年1月16日開業
- 客室数207室（うちスイート28室）



B アミュプラザ長崎本館リニューアル

- 2024年3月1日リニューアル
- 28店舗、長崎最大級「食のフロア」



2022年1月	2022年3月	2022年9月	2023年4月	2023年11月	2024年1月	2024年3月
A 茜さす 肥前浜宿 古民家宿泊施設	B かもめ市場 お土産・飲食等	西九州新幹線	C 佐賀駅高架下 リニューアル	B アミュプラザ長崎新館 D 嬉野八十八	B 長崎マリオット ホテル	B アミュプラザ長崎 本館リニューアル
						

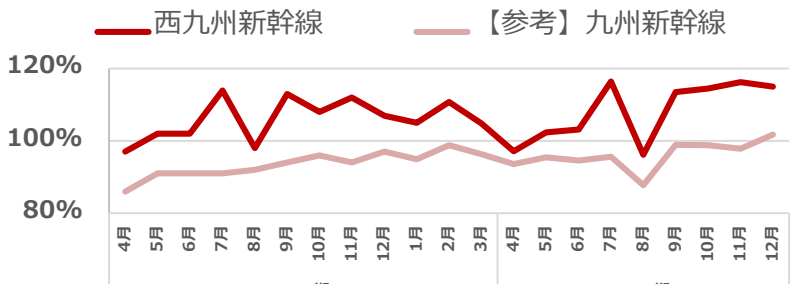
重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 西九州新幹線開業効果の最大化

- 西九州新幹線ご利用状況のトレンドは、引き続き九州新幹線を上回り推移
- 長崎駅の近距離収入・西九州新幹線定期のご利用者数も堅調、更なる開業効果の継続、拡大を図る

西九州新幹線 ご利用者数

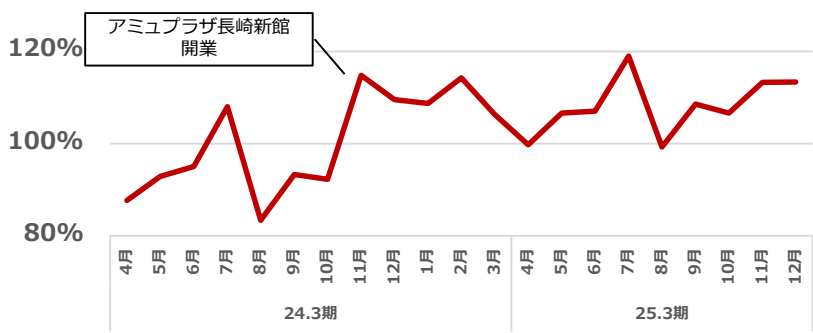
開業2年目 約6,900人/日 ※開業1年目
開業3年目 約7,400人/日 ご利用者数
約6,600人/日

西九州新幹線ご利用者数の19.3期比



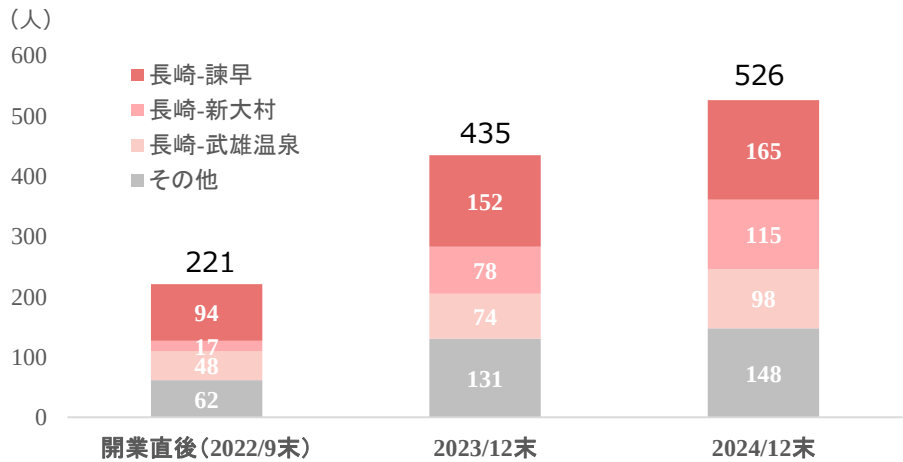
※開業3年目のご利用者数は2024年9月23日～2024年12月22日の実績
※西九州新幹線は武雄温泉～長崎間、九州新幹線は博多～熊本間の実績
※2018年の諫早～長崎間の特急「かもめ」の利用実績比

長崎駅近距離収入の19.3期比推移



※2018年7月の収入は「平成30年7月豪雨」の影響があるため、7月の19.3期比は高い傾向にある

西九州新幹線 定期ご利用者数推移



アミュプラザ長崎の状況

開業1年間
全館ご来館者数
約2,580万人
内、新館約970万人

(参考)長崎県の人口
約126万人
※2023年10月1日現在
出典:「人口推計」(総務省統計局)



- アミュプラザ長崎新館は11月に開業1周年を迎え、イベントを実施
- アミュプラザ長崎・長崎スタジアムシティの買い物券がセットになった割引きっぷを、2025年1月から発売



重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 豊肥本線エリアの概況

- 半導体企業の集積により、交流・沿線人口の増加が見込まれる。TSMC第1工場は12月稼働開始
- 2029年春以降設置予定の豊肥本線 新駅～原水駅間を対象としたまちづくりの検討に取り組む

(仮称) 原水駅周辺土地地区画整理事業

- 当社を含むコンソーシアム（代表企業：三井不動産株式会社）が事業認可までの要件整理を担当する事業検討パートナーに選定。菊陽町が描く将来ビジョンの具体化を検討。

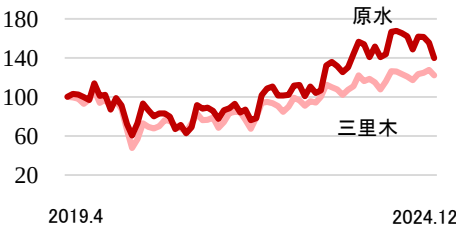


委託期間	2026年3月31日まで
対象エリア	新駅～原水駅間の約70ha
その他	今後、事業認可後の土地開発等を担当する事業推進パートナーの公募が行われる予定(時期未定)

新駅 三里木駅～原水駅間



乗車人員推移



※2019年4月の乗車人員 = 100として指数化

TSMC熊本工場（第1工場）

所在地 : 熊本県菊陽町
稼働時期 : 2024年12月～
その他 : 第2工場は第1工場周辺にて2025年3月までに着工予定。2027年末までに稼働予定。



画像 ©2024 TerraMetrics, Airbus, Google、地図データ©2024 Google



3つの重点戦略

重点戦略①

事業構造改革の完遂

重点戦略②

豊かなまちづくりモデルの創造

重点戦略③

新たな貢献領域での事業展開

重点戦略③ 新たな貢献領域での事業展開 | M&Aの推進



- 収益機会の獲得や事業領域の拡大を目指し、既存事業とのシナジー効果の最大化や九州の観光推進につながるM&Aをこれまで実施してきた。
- 最近では、BtoB事業への挑戦と、地域の雇用維持やブランド価値の維持向上を図っている。

M&AによりJR九州グループ入りした会社

●2016年以降、BtoB領域では11社、BtoC領域では5社の会社をM&A

(BtoB領域)

- ・キャタピラー九州
- ・CKレンタル

キャタピラー・ジャパン合同会社の九州地区特約販売店であり、建設機会・道路機会等の販売、レンタル等が主な事業



- ・プレミアムロジックス
ピアノ等の大型楽器、複合機や医療機器等の精密機械を中心とした重量物の運送等が主な事業



(BtoC領域)

- ・フジバンビ
「黒糖ドーナツ棒」をはじめとした菓子の製造販売等が主な事業



- ・おおやま夢工房
九州有数の梅の郷大分県日田市大山町の温泉宿「奥日田温泉 うめひびき」の運営、梅酒をはじめとした加工品の製造・販売等が主な事業





本中期経営計画の実行を支える 人づくり・基盤づくり



KYUSHU RAILWAY COMPANY

本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり

JR九州の人材戦略

「JR九州グループ中期経営計画2022-2024」
「2030年長期ビジョン」「あるべき姿」の実現に向け、基盤となる「人づくり」を推進するため、新しい人材戦略を策定

人間力

- 自分を「もっと高めよう」、会社を「もっと良くしよう」と考え、どんな状況でも努力する
- 多様な価値観を受け入れ、協働するとともに後進や部下を育成する
- 5Sやあいさつを大切に、手間を惜しまず、嘘、偽り、ごまかしのない行動をとる
- お客さまや地域の方々、取引先からの信頼を得る

あるべき姿

実務力

- 自らの業務をやり遂げ、業務や事業の成長と進化に積極果敢に挑戦する
- 高い視点と広い視野を持ち、経営に参画する
- 自ら進んで勉強し、自分のレベルアップに積極的に取り組む
- 地域の方々や自治体等、社外の方々との連携により、成果を最大化する

2つの基本方針

- ▶ 社員が働きがいを持ち、いきいきと活躍できる会社づくり
- ▶ 人間力と実務力を持った社員の育成

人材戦略の4つの柱

意欲と能力のある社員への挑戦・成長の機会の提供と支援

多様な価値観や能力を持つ社員の活躍による新たな価値の創造

努力と成果に応じたメリハリのある評価と報酬

ライフプランに合わせた柔軟な働き方が選択できる環境整備と健康経営の推進



安全

＜安全に関する社員の声＞

“安全はあるものではなく、つくりあげていくもの”
との考えのもと、**安全性向上**に取り組む



サービス

＜お客さまの声＞

「サービスを社風へ」と高めるべく、お客さまの声
に耳を傾け、サービスのさらなる向上・改善に注力



人づくり

＜新規事業提案制度を通じた多様なキャリア＞

自ら学び、挑戦する人づくりに取り組み、
多様な人材が生き活きと活躍できる環境をつくる

本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり



●JR九州グループDX戦略2022-2024

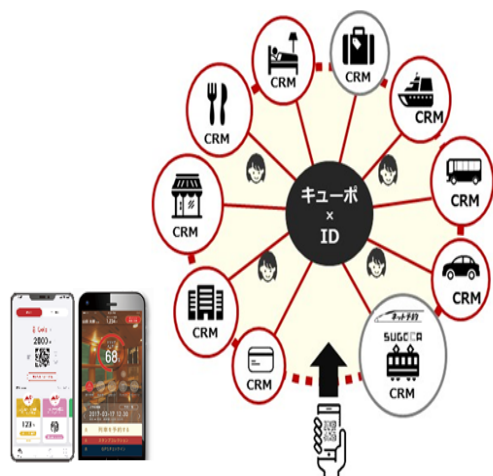
DX推進

DX: デジタルトランスフォーメーション

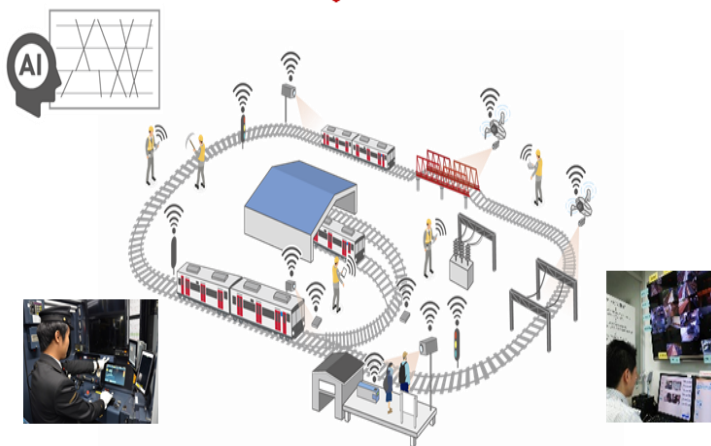
デジタル技術を発展させ、業務の効率化だけでなく人々の生活をより良いものへと変革すること

デジタル推進体制の構築

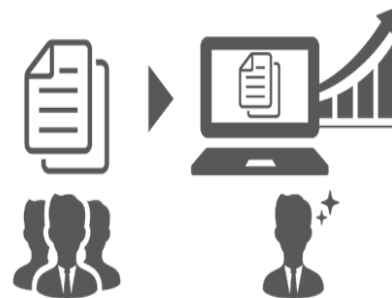
デジタル基盤の整備



お客さま体験価値向上



オペレーション・メンテナンス改革



働き方改革・生産性向上

・ 上記の実現に向けて、デジタル技術の活用やデジタル人材の育成等を通じた環境整備を行い、デジタル推進体制の構築に取り組む



JR九州グループにおけるESGの取り組み



KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループにおけるESGの取り組み



ESG経営は全社的課題



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)

JR九州グループにおけるESGの取り組み

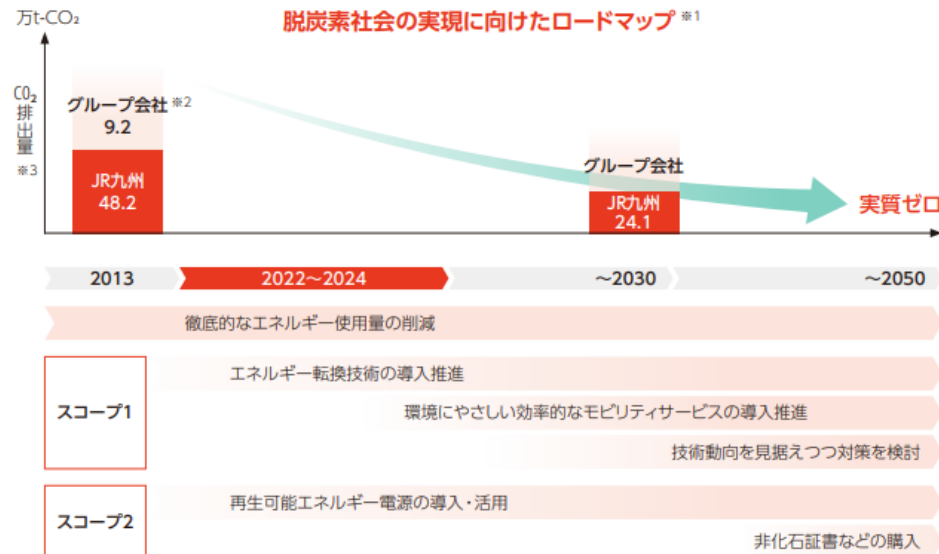


E：脱炭素社会の実現に向けて

脱炭素社会の実現に向けた基本的な考え方



脱炭素社会の実現に向けたロードマップ



※1 適切にマイルストーンを置き、将来的な技術動向や経済合理性を考慮しつつ、適宜見直しを実施する
 ※2 エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）で定められる定期報告の集計値
 ※3 スコープ1、2排出量

本中期経営計画期間における主な取り組み



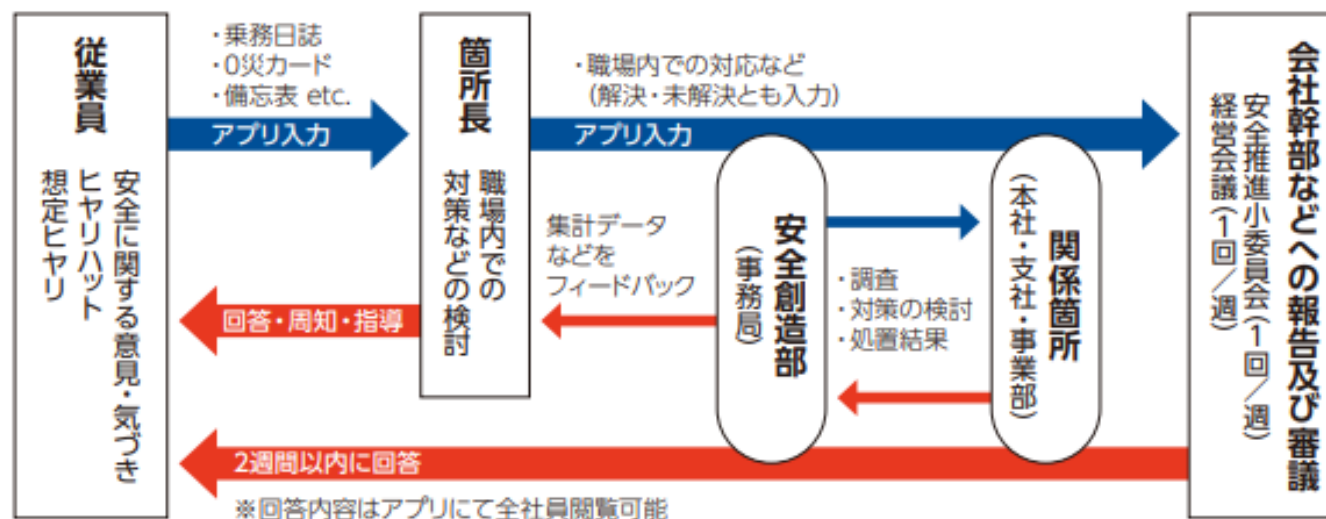
JR九州グループにおけるESGの取り組み

S：すべての事業の基盤となる安全とサービス

安全に関する基本的な考え方

安全はあるものではなく、つくりあげていくもの

安全に関する社員の声



安全に関する社員の声（改善事例）



長崎駅の柵内ホーム端の立ち入り禁止エリアを越えて写真撮影をされるお客さまにヒヤリとした。



長崎駅に注意喚起シートを貼付け、ポールを設置し注意喚起を行うことで安全を確保

JR九州グループにおけるESGの取り組み

S：すべての事業の基盤となる安全とサービス

安全を支える人材の育成（安全創造館）

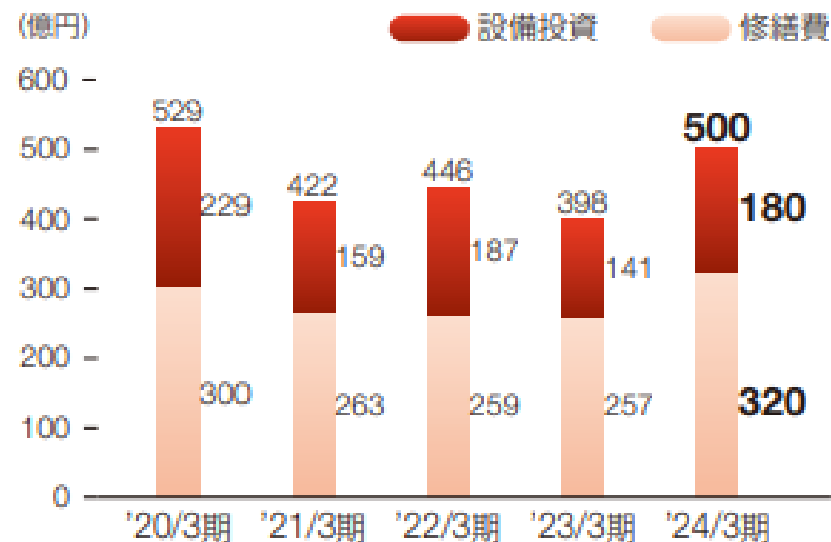
- ・ 目的：過去の事故等の教訓を風化させず、基本動作や安全対策の意味を理解し、お客さまや社員の安全のために行動できる社員の育成を実現するため
- ・ 開設年月：2011年1月
- ・ 内容：過去の事故概要等のパネル展示での学習や模擬踏切、模擬ホーム、模擬トンネル、模擬車両及び労働災害を学ぶ設備があり、実際に体感、体験することが可能
- ・ 受講人数：63,489名（2023年度末現在）
※安全創造館開設以来の人数



経営陣が受講する様子(6巡目研修)

安全にかかわる設備投資等

毎年計画的に実施しており、2023年度は、老朽設備の取替え、保安・防災対策、安定輸送対策、車両関係などへの投資として180億円、鉄道設備や車両などの維持管理のための修繕費として320億円、合計500億円を支出



JR九州グループにおけるESGの取り組み（地域との連携に関する企業CM）



JR九州グループ統合報告書2024



JR九州グループの財務情報に加え、経営方針・事業戦略・ESG情報等の非財務情報を記載した**統合報告書**を作成・公表



JR九州 統合報告書

検索

https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/integrated_report/



決算ハイライト・株主還元



KYUSHU RAILWAY COMPANY

2025年3月期第3四半期連結決算ハイライト



- 保有物件の売却の減はあったものの、鉄道旅客運輸収入の回復、既存施設が好調に推移したこと、前期開業物件の平年度化などにより、営業収益は対前年増収、営業利益は対前年増益
- ドラッグイレブン株式の譲渡益の減などにより親会社株主に帰属する四半期純利益は対前年減益

(単位：億円)

	2024年3月期 3Q累計実績	2025年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	2,929	3,219	289	109.9%
営業利益	431	496	65	115.1%
経常利益	448	499	51	111.5%
特別損益	67	4	△ 62	6.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	407	373	△ 33	91.8%
EBITDA ^(※)	671	770	99	114.8%

※EBITDA=営業利益+減価償却費（転貸を目的としたリース資産に係る減価償却費除く）以下、全て同様です。

2025年3月期 通期連結業績予想ハイライト



- 従業員の待遇改善による人件費の増はあるものの、鉄道運輸収入の増や修繕費の減、前期開業物件の平年度化や開業経費剥落などにより、営業利益は増益見込み
- 連結の範囲を変更し、建設セグメントとビジネスサービスセグメントの一部の孫会社を連結化
- 中期経営計画における営業収益・営業利益・EBITDAの目標は達成見込み

(単位：億円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 通期予想	対前年		中期経営計画 目標値	対目標	
営業収益	4,204	4,411	206	104.9%	4,400	11	100.3%
営業利益	470	573	102	121.7%	570	3	100.5%
経常利益	489	567	77	115.9%	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	384	422	37	109.8%	—	—	—
EBITDA	800	940	139	117.4%	940	—	100.0%

鉄道運賃・料金改定の申請について



- 昨年11月に鉄道旅客運賃・料金の上限変更が認可された
- 鉄道事業を継続するための課題解決に向け、改定が必要と判断

背景・目的

- 高速道路網の発達や全国平均を上回る九州地区の人口減少・高齢化に加え、新しい生活様式の定着に伴うご利用のさらなる減少により、輸送需要はコロナ禍前の水準に戻らないと想定
- コロナ禍前から固定費の削減や生産性の向上に努めてきたが、昨今の電気料金や物価の高騰による経費の増加もあり、厳しい経営状況が継続する見込み
- 安全やサービスの維持向上、老朽化した車両・設備の更新や長寿命化、激甚化する災害やカーボンニュートラル等に対応する設備投資や修繕等に必要な資金を安定的に確保することが困難。
また、働き手を安定的に確保すべく、待遇や職場環境の改善を図ることが急務

改定内容

実施予定日	2025年4月1日 (1996年1月以来、29年ぶりの改定)
増収額	169億円(増収率11.4%)
改定率	運賃・料金全体: 15.0% ・普通旅客運賃: 平均14.6% ・定期旅客運賃 通勤定期: 平均30.3%、通学定期: 平均16.0% ※通学定期の割引率は据え置き ・新幹線特急料金: 平均12.4% ※一部の隣接駅間等で自由席をご利用になる場合に 適用する特急料金と西九州新幹線の特急料金は据え置き

今後の取り組み

設備投資計画の主な件名	投資額
鉄道施設の長寿命化 (2024年度～2027年度)	約75億円
次世代車両の新製 (2024年度～2030年度)	約125億円
既存車両の改造 (2024年度～2030年度)	約110億円
次世代車両検査施設の整備 (2024年度～2031年度)	約480億円
チケットレスサービスの導入・拡大 (2024年度～2027年度)	約30億円



株主還元



KYUSHU RAILWAY COMPANY

株主還元方針



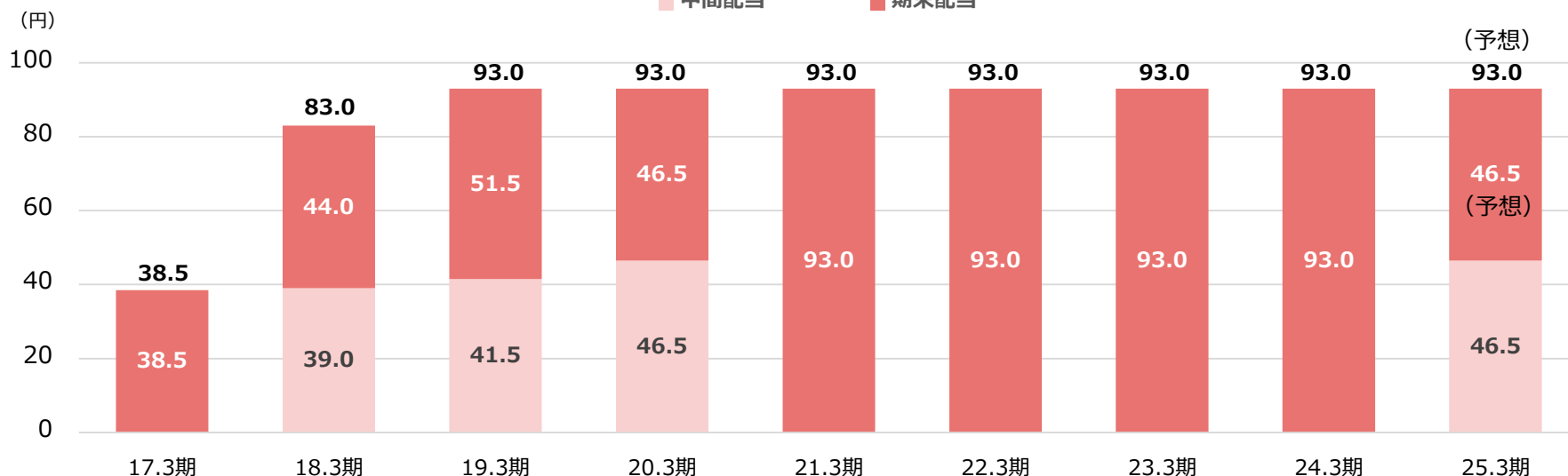
2025年3月期は**1株当たり93円**の配当予想（5年ぶりに中間配当再開）

株主還元方針

- 株主還元は長期安定的に行っていくことが重要と考え、2025年3月期まで1株当たり配当金93円を下限として、連結配当性向35%を目安に配当を行い、状況に応じて機動的に自己株式取得を行う
- 2025年3月期より中間配当を再開

（参考）1株当たり年間配当金の推移

■ 中間配当 ■ 期末配当



・コロナ禍でも安定的な配当を実施

配当性向	13.8%	26.3%	30.2%	46.9%	-	110.3%	46.9%	38.0%	34.6%
総還元性向	13.8%	26.3%	30.2%	78.6%	-	110.3%	46.9%	38.0%	34.6%

※自己株式取得 (100億円)



株主優待制度



KYUSHU RAILWAY COMPANY

株主優待制度



2種類の株主優待

※ 3月31日を基準日として株主優待制度を実施し、6月下旬に送付しています。

鉄道株主優待券

1枚につき、お一人様の運賃が1日無料（**1日乗車券タイプ**）
特急列車・新幹線にご乗車の場合は、別途特急券が必要

JR九州グループ 株主優待券

JR九州グループの各利用対象施設で
現金同様にご利用可能な**500円券**（一律5枚）

株主優待制度（鉄道株主優待券）



- お一人様1日限り、JR九州管内の快速・普通列車に乗り放題
（日田彦山線BRTもご乗車いただけます）
- 別途、特急券等をご購入いただければ、特急列車・新幹線、D&S列車にもご乗車いただけます。
- 鉄道株主優待券と併用する特急券は、券売機やインターネット予約でも購入いただけます。

<ご利用の際の運賃・料金のイメージ>

博多→鹿児島・指宿温泉へ

（大人お一人さまで九州新幹線自由席、特急「指宿のたまて箱」指定席、片道利用の場合）

通常料金：12,440円（運賃：6,160円、新幹線自由席：4,500円、特急指定席1,780円）

優待料金：6,280円（運賃：0円、新幹線自由席：4,500円、特急指定席1,780円）



株主優待制度（JR九州グループ株主優待券）



2025年7月1日から拡充します！

●JR九州グループ株主優待券の電子化

電子化に伴い、お手持ちのスマートフォン等でご利用いただけます。
また1円単位でご利用いただけます。

（申請いただければ、従来通り紙での使用も可能。紙の場合は、従来と同様にお会計時にお釣りの返金はありません）

<ご利用イメージ>

①二次元コードを読み取り、JR九州グループ株主優待券ページをお気に入り登録ください。

②利用対象施設にて、JR九州グループ株主優待券ページを開き、店舗設置の二次元コードを読み取り、お支払金額をご入力の上ご提示ください。



株主優待制度（JR九州グループ株主優待券）



2025年7月1日から拡充します！

●JR九州グループ株主優待券の利用対象施設を新規追加

※JR九州リテール株式会社が運営する九州のお土産セレクトショップ

「銘品蔵」全店舗とJR九州フードサービス株式会社が関西地区で運営する「こめらく」が新規追加となります。



博多銘品蔵 博多口店



こめらく 贅沢な、お茶漬け日和。
阪急西宮ガーデンズ店

株主優待制度（長期保有株主優待制度）



2025年7月1日から拡充します！

- 長期保有株主優待制度の内容を拡充し継続保有期間を2年に短縮

ご優待内容

「鉄道株主優待券」と
「JR九州グループ株主優待券」を追加で発行

発行基準

毎年3月31日を基準日として、**500株以上**を保有し、かつ
100株でも継続して**2年以上**保有

所有株式数	鉄道株主 優待券	長期保有 株主優待	JR九州グループ 株主優待券	長期保有 株主優待
100株～500株未満	100株毎に 1 枚	—	一律2,500円分	—
500株～1,000株未満	100株毎に 1 枚	1 枚追加	一律2,500円分	1,000円分追加
1,000株～10,000株未満	10枚 + 1,000株超過分 200株毎に 1 枚	2 枚追加		2,000円分追加
10,000株～20,000株未満	55枚 + 10,000株超過分 300株毎に 1 枚			
20,000株以上	100枚			

例) 2025年3月31日時点での所有株式数が500株以上であれば、
直前2年間の保有株式数が500株未満であっても長期保有株主優待の対象となります。



当社グループはあるべき姿として掲げる

「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気をつくる企業グループ」の実現に向けて、社員一丸となって取り組んでいます。

加速度的に変化する社会の中で、あるべき姿の実現に向けて、事業構造改革を完遂させるとともに、グループの未来をつくる「人、モノ、新技術」への投資を積極果敢に行うことで、今後の持続的な成長につなげてまいりますので、ご期待ください。

本日のまとめ



JR九州について

九州内を中心に、鉄道事業のみならず不動産、流通・外食事業等さまざまな分野で地域とともに「価値」を創出してきた企業グループ

JR九州の 経営戦略

「あるべき姿」の実現のため、2030年長期ビジョンを掲げ
安全・安心なモビリティサービスの提供と地域の特性を活かした
まちづくりを通じて、九州の持続的な発展に貢献する

決算ハイライト & 株主還元

株主還元を経営上重要な施策と位置づけ、
長期安定的な還元を目指す

2025年度3月期は1株当たり年間93円の配当予想
株主優待は2種類（長期保有株主優遇制度あり）

株主さま向け限定イベントの開催



株主さまに当社事業への理解を深めていただくべく、各種イベントを開催

株式上場7周年記念キャンペーン

- 株主の皆さまへ日頃の感謝を込めて、イベント等を開催



JR九州社長によるトークショー＆
「SL人吉」「A列車で行こう」貸切ツアーの様子

熊本総合車両所見学ツアー

- 熊本総合車両所にて新幹線の点検行程等を見学



2024年度実施予定のイベント

- 2月に関東地区でのイベントを開催予定（募集期間終了）

株主さま向けメールマガジンのご案内



- 当社の株主さま向けに月2回程度、IR情報や株主さま限定イベント、アンケート等の情報をお届けいたします。

2025年2月28日（金）まで！！

★メルマガ会員新規登録キャンペーン実施中★

上記期間までにご登録いただいた株主さまの中から、抽選で30名様にJR九州ファームのたまごを使用し、九州にこだわり、国産食材を使用した素材で懐かしい味わいの「うちのたまごミニケーキセット（5個セット）」をプレゼント！ぜひ、ご登録をお願いいたします！

★ご登録はこちら★



将来の見通しに関する記述について



本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

弊社IR関連資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。
JR九州ホームページ

<https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/>



ありがとうございました

